

組織目標評価報告書（平成24年度）

部局名：環境管理センター

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域	自己評価
①-1 目標 1. 学生、教職員に対して、サステイナブル・キャンパスを目指した環境と安全に関する教育を実施する。 2. 学生に対しての環境問題の啓発活動を行う。 3. 各部局における環境教育との連携を図り、教育活動を充実させる。	1. 新入生に配布資料「環境安全ガイド」の発行、岡山大学環境報告書に関するポスター、チラシを発行して配布した。 2. 平成23年度後期から教養教育科目「サステイナブル・キャンパスを目指して」を開講し、学生自らが環境マネジメントや安全衛生指針を理解し、行動できるための知識およびサステイナブル・キャンパスを目指した先端技術が展開できる素養を教授した。(H24後期 15回) 独自に行った授業評価アンケート(5段階)の結果は、4.4であった。 3. 学内構成員を中心とした環境管理センター主催のサステイナブルセミナーを4月、7月、10月、12月に開催した。 サステイナブル・セミナーへの延べ参加者数は、200名であった。 4. 主に理系の実験、実習を始める学生に対して出前講義を実施した(12回、受講者数延べ406名)。 5. 環境管理センター主催公開シンポジウム「環境とエネルギー」を開催し、教職員、学生へのライフスタイルの提案、エネルギー利用技術に関する教育効果があった。 6. 環境理工学部において「省エネ学生サポーター制度」の協力学生への指導を行った。
①-2 目標とする(重要視する)客観的指標 平成23年度に実施した教育・啓発を継続するとともに、目標1に関連して、教養教育科目「サステイナブル・キャンパスを目指して」において独自の授業評価アンケート(5段階)を行い、3.5以上を目指す。また、目標2に関連して、サステイナブル・セミナーへの延べ参加者数150名以上を目指す。	
②研究領域	自己評価
②-1 目標 1. 科学研究費、受託研究費を始め、競争的資金の獲得に努め、研究基盤の充実を図る。 2. 環境管理センターは、広く社会に活用可能な研究課題を定めることにより、外部との共同研究等の推進に努める。	1. 各教員が環境分野の基盤的、実用的な研究を行い、関連学会で発表または論文にて公表した。 2. 科学研究費や外部資金の獲得を行い、平成24年度も新規に外部資金を獲得した。さらに、大学機能強化戦略経費、施設整備要求、並びに分析機器等の設備要求を行った。 このうち、平成24年度大学機能強化戦略経費(1期:テーマ4-1)として、「持続可能な社会構築を目指した環境配慮型基盤・実証研究」(要求総額21,923千円)を要求したが、採択されなかった。 3. 「環境制御」を刊行し、前年度の研究活動実績を掲載し公表した。
②-2 目標とする(重要視する)客観的指標 平成23年度に引き続き、科学研究費や外部資金の獲得を積極的に行うほか、環境管理センターで大型プロジェクト(10,000千円以上)の申請を1件以上行う。	
③社会貢献(診療を含む)領域	自己評価
③-1 目標 1. 一般市民が参加できる環境・安全に関する公開シンポジウムやワークショップを開催する。 2. グローバルな課題であるエネルギー問題、環境保全、環境改善等に関する技術や知見を広く社会に還元する方策を検討し、学内外との環境コミュニケーションを推進する。 3. 地域行政に関わる審議会や専門委員会にて、積極的に社会貢献を行う。	1. 環境管理センター主催公開シンポジウム「環境とエネルギー」を開催した。191名の参加(うち学外者101名)があり、新しいライフスタイルの提案及びエネルギー利用方法について、市民及び大学構成員とが一緒に学び検討することができた。 2. 研究成果は、論文、公開講座、出前講義、講演会等で広く公開され、広く社会に還元した。 3. 環境報告書のポスター、チラシを配布し、学内外との環境コミュニケーションの推進に役立った。 4. 岡山県、岡山市及び倉敷市の審議会や委員会の委員、また大学等環境安全協議会、UNEP関連等の委員を務めることにより積極的に社会貢献を行った。
③-2 目標とする(重要視する)客観的指標 平成23年度に実施した社会貢献活動を継続するとともに、環境管理センター公開シンポジウムへの一般市民の参加者数100名以上を目指す。	
④センター業務	自己評価
④-1 目標 1. 適正な化学物質管理を推進するため、化学物質管理に関する監査、化学物質管理講習会等を継続実施する。 2. 化学物質管理について、管理方針、利用者の利便性を考慮したシステムの再構築を検討する。 3. 環境マネジメント委員会における検討部会と連携し、環境方針を踏まえた地球温暖化防止対策、省エネルギー対策、リユース推進を含む省資源対策及び環境報告書の充実を推進する。また、環境報告書の広報活動を通じて、意識啓発活動に努める。 4. 廃棄物管理、排水管理等の環境管理センターが関係する環境法令に関して、講習会等を実施する。	1. 環境マネジメント委員会の下部組織として、従来の各種検討部会・WGを「地球温暖化対策」「環境広報」「省資源対策」「化学物質管理」の4つの専門部会に改編し、部会長及び委員を勤め、専門的に検討を進めている。 2. 適正な化学物質管理を推進するため、化学物質管理講習会を2回開催した。化学物質管理に関する監査を実施した。書面審査(全部局)及び現地調査(12部局)を行い、化学物質の適正管理の強化を図った。 3. 環境マネジメント委員会にて環境目標・目的の点検評価、本学の環境報告書の作成、地球温暖化対策等を協議することにより環境マネジメントの充実と進展を図った。 4. 環境マネジメント委員会化学物質専門部会において、平成24年度の新たな目標とした目標2に関連して、化学物質管理強化方針を検討し、策定した。 5. 「環境報告書2012」を企画、作成し、9月に公表した。 6. 地球温暖化対策説明会を開催し、周知・啓発を図った。グリーン調達徹底のため、グリーン調達方針説明会を開催した。 7. 実験系廃棄物管理の適正管理を徹底するため、技術指導員講習会を2回開催した。水質管理講習会を開催し、排水管理に関するコンプライアンス啓発を行った。 8. リユース情報システムの広報を検討したが、実行できなかった。 9. 地球温暖化対策実施基本計画(H25～H27)を策定し、4月の部局連絡会等で周知する。 10. 作業環境測定の実施に向けて、廃液管理の側面から化学物質によるリスクの度合い及び環境測定の実施をお願いしたい部署の検討に関連して協力した。
④-2 目標とする(重要視する)客観的指標 平成23年度に実施したセンター業務を継続するとともに、平成24年度の新たな目標とした目標2に関連して、化学物質管理システム再構築に向けた整備方針を策定する。また、目標3に関連して、リユース情報システムの広報を行い、登録数50件以上を目指す。	
【総括記述欄】	
平成23年度に引き続き、教養教育科目「サステイナブル・キャンパスを目指して」とサステイナブルセミナーを開講し、環境に関する教育および啓発活動を活発に行い、目標とする客観的指標を大きく上回ることができたことは、高く評価できる。特に、「サステイナブル・キャンパスを目指して」の受講希望者が多いことを考慮して、平成25年度は収容人数100名以上の教室での開講を予定している。社会貢献に関しては、公開シンポジウム「環境とエネルギー」を開催し、多くの参加者の下、話題提供者、市民、大学構成員、学生が一体となって学び議論する場を提供し、更に公開講座や審議委員等を積極的に行ったことにより、目標を達成できたことと評価する。センター業務に関しては、責務に加え、環境マネジメント委員会の各専門部会の部会長、委員を務め、環境マネジメントの充実と進展を図った。特に、他大学と比較して遅れていた化学物質管理に関して、強化方針を検討し、策定することで一歩前進させたことは評価できる。しかし、省資源化対策の一環であるリユース情報システムについては、目標を達成することができなかった。 次年度は、化学物質管理強化方針に基づく規程等の整備、より実質的な省資源化対策、地球温暖化防止対策、省エネルギー対策の推進に関して、更なる成果が得られるように、努力する所存である。	